

様式3 まとめ(自己評価および学校関係者評価)

坂戸市学校評価システム

令和3年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立坂戸中学校
実施日	令和4年2月18日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	<p>○校長が特色ある学校づくりを目指して経営ビジョンを明確化し、職員及び保護者に示した。</p> <p>○学校だよりを保護者及び地域に配布し、学校の教育活動を地域の方々に知っていただいていることは評価できる。</p> <p>○校務分掌の偏りが大きな課題である。来年度は授業時数、分掌の負担度を含めた校務分掌一覧表を作成し、偏りの解消に取り組む。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校長から特色ある学校づくり経営ビジョンの明確化がされている。 ・校務分掌の偏りについては、しっかり改善していただき、教職員一丸となって、よりよい学校になるよう取り組んでいただきたい。 ・坂戸中学校は長きにわある歴史と伝統を大切にしながら、生徒や保護者の願い、取り巻く地域環境等の現状をを踏まえながら奥隅校長先生の経営ビジョンや目指す学校像の実現に向けて「新時代に即した教育への対応がしっかりと組織的計的に取り組まれていると感じます。「特色ある学校づくり」といっても、学校は公教育ですので、法令や学習指導要領に即し教育活動を充実することが基本。教育の不易と流行をしっかりと見極め、課題の重点化が図られていると感じます。 ・年度始めに資料を配布し、ビジョンを周知している。しかしながら、保護者の関心度合の差はあれど、深く理解しているとは言い難い。中間報告など、進捗状況の共有があると良いと感じた。 ・経営ビジョンが明確であり、伝える努力が実り、成果が出ていると評価できる。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	<p>○通常の避難訓練に加え、B棟での非常階段を使った避難訓練ができ、生徒及び教職員の意識の向上を図ることができたことは評価できる。</p> <p>○今年度はコロナの関係で外部からの指導者を招聘することはできなかったが、次年度は状況を見極め、外部からの講師を招き、消火ポンプ、避難袋等を用いた研修、避難訓練等を行っていく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルや緊急連絡体制もしっかりと整備されているとともに、教職員への周知も徹底されていると感じます。一昨年度の台風19号から、長引く新型コロナウイルス感染症対策も組織的にしっかりと取り組まれていると校内施設や授業等を拝見させていただき感じました。生徒たちが穏やかで明るい表情で充実した生活が送れているのも、そうした安心・安全な学校経営、組織的な取組が根幹にあるからだと思います。 ・トラブル発生時、生徒への影響が最小限になるよう対応していただきたい。 ・コロナ禍での限界がある中、工夫して取り組まれている。又、課題も明確にされており、次年度につながる活動が行えている。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	C	<p>○今年度は「ノー残業デー」の周知ができなかった。次年度は毎週水曜日を「ノー残業デー」とし、職員室での掲示、周知を行い、「ノー残業デー」の遂行に取り組む。</p> <p>○今年度は勤務時間外に学年会議が行われている実態があった。次年度からは「緊急の生徒指導」及び「大きな行事前の打ち合わせ」以外に学年会議を行わないように取り組む。</p> <p>○各教科、領域、行事の資料データを共有フォルダに入れ、職員の資料作成の時間の削減を図っていく。</p> <p>○行事検討委員会を行い、行事の精選を図る。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育への多様なニーズは時代を追うごとに増えるとともに、今年度も新型コロナウイルス感染対策もあり、その大変さを推察いたします。特に坂戸中の教職員の皆様は生徒のことを第一に考え、日々、熱心かつ丁寧な教育指導を展開されておりますので、なおさらではないかと感じています。健全な教育活動も教職員の皆さんの健康があつてのこと。ワークバランスの視点でも引き続きの業務負担軽減を講じていただきながら、働き方改革を推進されることを願っております。異校種でサービススタイルは異なるかもしれませんが、小中間でも互いの負担軽減策の取組の情報交換も一考かと思えます。 ・先生方の仕事が多岐にわたり、現実的に改革できる状況にないと思われる。根本的に業務を減らすことが出来ないかぎり、問題解決には至らないのでは。 ・各学校単位でどうこうでできることではなく、酷だと思ふ。政府、行政、民間と様々な機関の力が必要な問題。 ・遅くまで勤務していることが日常的になっている。 ・意識改革と抜本的な作業軽減を組織として進めて欲しい。 ・ノー残業デーは学校全体で取り組むものであるため、全職員が協力する必要がある。 ・個々の教職員でまだ改善できる場所があるかもしれないが、生徒数に対しての教職員の配置は適切なのだろうか。空き時間がほとんどない状況では、自助努力にも限界があると思ふ。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	B	<p>○国や県の調査を活用し、授業改善に取り組んでいることは評価できる。さらに、全職員での学力調査の分析を推進し、授業改善に努める。</p> <p>○毎年実施している「主体的・対話的で深い学び」の研修が、コロナの関係で実施できなかった。次年度は「主体的・対話的で深い学び」の研修を推進し、授業改善に努める。</p> <p>○年2回実施予定のHyper-QUをコロナの関係で実施が1回となってしまった。県学力状況調査も含め、さらなる活用方法についての情報を収集し、有効活用に努める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を工夫されている様子が伺え、生徒も楽しそうに取り組んでいる様子が見られた。 ・学力が伸び悩んでいたり、定着しない生徒に対するフォローをしっかりと行っていただきたいと思う。 ・坂戸中は、新学習指導要領の大きなねらいでもある「主体的・対話的で深い学び」を目指し、本市の「学び合い」による授業改善に努めてくださっていることを経年で感じています。今年度もコロナ禍にあり、この字型等で授業形態も厳しいこともあったかと思いますが、単位時間の授業の中でペアワークやグループワークも取り入れ、教師主導の説明と板書が中心の一斉指導から脱却し、生徒同士を繋いだり、教材との対話を重視されている生徒主体の授業づくりが行われていると感じています。 ・授業を拝見し、各先生方の個性と工夫を感じる。(昔と比べ、一方的にならないよう、様々な工夫を感じる) ・各教科を学ぶ意義(なぜ学ぶ必要があるのか?何のために)を時々都度生徒たちに伝えていくことも重要だと思う。 ・授業がわからなくなっている生徒が増えていることが気になる。生徒同士の学び合いだけではなかなか理解できない生徒のフォローアップを進めて欲しい。 ・毎回の授業参観において、授業内容や方法に工夫が感じられる。一方通行でない「主体的・対話的」であり、評価できる。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	<p>○生徒は礼儀正しく、清掃の反省会も丁寧に行うことができている。授業も真面目に受けようとする姿勢を感じることができる。</p> <p>○現在、道徳の授業は担任が行っているが、担任だけでなく、学年の教職員全員で授業展開を行い、より価値項目に迫る授業を実践していく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は礼儀正しく、外来者にもきちんと挨拶ができる。服装や身だしなみも生徒らしい清潔感が感じられ、毎回感心している。 ・道徳の授業を核としながらも学校全体の教育活動を通して、「豊かな心」を育む教育活動を実践されていると感じます。全国的に大きな問題となっている「いじめ」についても校長先生の強い思いといじめ防止基本計画に基づいた組織的な取組がなされていると感じています。教科担任制や部活動等、複数の教職員が生徒に関わることを利点とし、今後も生徒理解のための情報の共有化と同一歩調のご指導を大切にされることを願っております。 ・個人の価値観が授業の伝え方に影響しそうな学びなので、仰る通り担任だけでなく、色々な先生を通して実施した方が良いと思う。また、画一的ではなく、多様性を重視した学びが時代的にも求められる。 ・道徳教育は担任の授業だけでなく、色々な関わりをもつ先生方が授業を行うことにより、その人なりの生き方を生徒に伝えることができたり、より価値観に迫ることができると思う。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	<p>○生徒は校内ではよくあいさつできている。しかし、個になったときに自ら進んで積極的にあいさつをできないときもあるので、さらなる取組が必要である。</p> <p>○代議員会で行っていった朝の「あいさつ運動」を有志で参加する形にしたことにより、参加者も増え、意識の向上を図ることができたのは評価できる。</p> <p>○生徒一人一人の特徴を理解し、信頼に基づいた生徒指導を行っている。校内指導体制は整っている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での生徒の様子を見ると、はつらつとし、明るく意欲が感じられる。又、不登校生徒の保護者からも熱心で温かい先生方の取組や対応に感謝が述べられている。信頼されていることが感じられる。 ・学校訪問時、生徒からあいさつができていたことを感じた。 ・授業参観時、落ち着いた雰囲気で行われ、先生の話をしっかり聞いたり、取り組むべき課題にもしっかり取り組んでいた。 ・坂戸中の皆さんは、本当によく挨拶してくれて訪問させていただいても気持ちが良いです。集団生活の規律や秩序もしっかりと整っており、学びに向かう姿も、集団として和やかな中にも積極的に協働しあったり、真剣に課題に取り組む姿が大いに拝見できます。これも信頼関係を基盤とする先生方のご指導の賜物であると感じています。 ・先生方を始め、生徒の多くも積極的なあいさつが出来ている。 ・授業中の態度、発言も差はあれど、良い雰囲気を感じた。 ・発言後のフォロー(反応)が大切だと感じた。(先生、生徒間でも) ・校内ですれ違くと、ほとんどの生徒が元気にあいさつをしてくれて、とても気持ちがいいし、うれしくなる。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。 (市共通項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> ○倫理確立委員会ニュースを配布し、全教職員が教職員事故を身近なものとして捉えることができた。 ○倫理確立委員会を毎週行われている企画委員会時に行い、定例化を図った。また、教職員の情報交換ができた。 ○教職員が同じ方向を目指し、一枚岩になるとともに、風通しの良い職場をつくっていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生のリーダーシップのもと、生徒にとっても教職員にとっても風通しの良い学校環境が作られていることがわかる。 ・教職員倫理は教える者として、一番大切なものであるが、全職員で意欲的に研修・実践している。 ・教員の不祥事防止については、管理職の先生から指示・伝達や研修、倫理確立委員会等を活用して計画的にしっかりなされていると思います。引き続き、「風通しのよい職場づくり」を継続していただきながら、小中でも互いの取組を共有するのも良いかと思えます。 ・罪を憎んで人を憎まずの精神で未来の成長を最優先に愛ある指導をお願いします。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にす態度で接している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○欠席の多い生徒に対しては、担任が放課後、電話連絡や家庭訪問をこまめに行い、生徒一人一人を大切にしたい対応をとっている。 ○生徒が毎日書いている「タイムくん」をその日のうちに担任が見てコメントを書き、生徒一人一人との関係を築く取り組みを行っている。 ○多目的室の利用について、再度共通理解を図っておく。 ○アンガーマネジメント、コミュニケーションスキルに関する研修を実施していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に努めるとともに、共通理解・共通行動で教育相談体制も充実されている様子が感じられます。思春期にある様々な悩みを抱えている生徒や発達障害で集団生活の中で困難を抱えている生徒、家庭的な要因で配慮を要する生徒等、本当に多いかと思えます。校長先生のリーダーシップのもと、先生方の日々のご尽力に頭が下がります。引き続き、小中の連携を踏まえた丁寧で継続的な支援を図らせていただくと有難いです。 ・理想と現実には悩まされる分野。本来、最も大切な分野なので、先生方の業務分担を減らしてでも、ここに注力すべきと感じる。 ・学力も生活力も精神力も全てはこの対人とのコミュニケーションが源泉になると思う。元来の合う合わないもあるため、生徒1人対先生数名という形も重要かと。先生方が忙しいと心の余裕もなくなり、ミスも増えるので、何かと負担を減らしていきたい。 ・一人一人の生徒に合わせた指導、対応は、時間制約のある中で行うことは難しいと思いますが、引き続き寄り添う気持ちを大切にしていきたいと思えます。 ・支援学級については、様々なケースがあると思うので、ケース会議の実施、特別支援教育に関する職員の学びにより、一人一人によりよい支援を行っていただきたいと思う。 ・生徒一人一人を大切にしている様子は大変評価できる。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○始業式、終業式において、学年代表生徒とともに、特別支援学級の生徒にも発表の場を設定した。また通常学級との交流も図られ、ノーマライゼーションの理念に基づく教育が実践できている。 ○特別支援学級に所属している生徒一人一人の支援計画を作成している。 ○コロナ禍ではあるが、坂戸ろう学校との交流を行うことができた。 ○ユニバーサルデザインに基づく教室掲示を年度当初確認しておく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育は、教育の原点とも言われておりますが、多様なニーズに対するためにも先生方もご苦労されているのではと拝察いたします。特別支援学級のみならず、坂戸小の卒業生も含め通常学級にも配慮が必要な生徒も当然ながらいると思います。今後、小学校の児童理解データベースを共有化していただいたり、特別支援教育分野でも、ユニバーサルデザイン的な視点での環境整備、授業デザイン等、小中間でお互いの取組を共有したりと合同研修ができれば有難いです。 ・いつ訪れても、生徒が生き生きとしている。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○月1度の安全点検は100%実施でき、危険箇所、修繕の必要な箇所の把握を行うことができた。修繕箇所については業者対応、教頭、担当での対応等、時間をかけずにすぐに対応できていた。 ○備品台帳と備品の確認を点検日に全教科で実施し、備品購入、備品修繕を有効なものにしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時に校内を案内していただいておりますが、安心・安全面に配慮され、教育環境としての施設・設備がよく整備されていると感じます。廊下等の掲示物も生徒の学習成果がわかるよう工夫されており、潤いのある教育環境づくりとともに、互いの掲示作品を見合うことでもお互いに刺激し合い「学び合い」もできているのではと感じます。 ・生徒の安全に直結することなので、引き続き整備に努めて欲しいと思う。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。 (市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> ○不審者情報、防犯に関する情報等をマメールを用い、家庭に提供できている。 ○学校評価における保護者アンケートによる意見に対し、傾聴し、丁寧な対応をとるよう取り組んでいる。 ○ホームページは整っているが、次年度は学校だより等を定期的に更新していく。 ○来年度はコミュニティスクールに向けて、地域との連携がさらに重要になってくるので、それに向けて取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での生徒の様子が「見えない」ことは、ともすると不安や不信感に繋がる惧れがあります。コロナ禍にあっても工夫されながら公開されているとともに、学校だより等の配布物や学校HP、マメール等を有効に活用されていると感じます。さらには、PTAの協力のもと動画配信を行うなど先進的な取組もされており、保護者の方々も喜ばれるとともに、生徒たちの活動へのさらなる意欲におおいに繋がっているのではと思います。 ・自己評価の通り同感ですが、コミュニティスクールに向けて、地域連携が重要と言うよりは、先生方の業務負担軽減(改善とも言える)のために、外部の力を活用するという考えの方が良いと思う。それが結果、子供たちのためになるから。業務の移管、委譲、連携をメインにするべき。 ・定期的なホームページの更新は大変だと思うが、学校だより以外も更新して欲しい。 ・各種おたよりだけでなく、ホームページなどを通して情報提供を積極的に行っていただきたいと思う。 ・学校だよりは定期的に更新されると良いと思います。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○図書ボランティアの方が毎週来校され、図書室の整理、掲示物づくり等行ったださっている。次年度は年度当初に全校生徒の前で紹介する場を設けていく。 ○今年度はコロナ禍で、民生児童委員との話し合い等を実施することはできなかった。次年度はコミュニティスクールに向けて、地域との連携を図っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも精一杯取り組まれていたと思います。 ・地域人材もさることながら、坂戸中はPTA保護者の皆さんの協力体制が本当に充実させていると感じます。また、いじめ・非行防止ネットワーク会議はもちろんのこと関係諸機関とも連携され課題解決に向けて努力されている様子が伝わります。今年度もコロナ禍のもとで感染予防対策から外部のゲストティーチャーや地域人材の活用も自粛されたのでは。地域人材の活用については必要に応じて無理なく進められるとよいのではないかと思います。 ・上記の通り、もっと様々な分野で外部の力を活用すべき。これは学校単位では限界もあるかと思うので(制度や習慣的に)教育委員会、行政レベルでの改革が絶対必要。 ・PTAや民間団体でも、この問題に取り組む必要がある。 ・次年度以降、積極的に地域と交流が復活することを望んでいる。 ・授業等で、地域と連携した活動は見直しつつ、継続して行って欲しい。 ・コロナ禍で厳しい状況ではあるが、地域と連携した活動を積極的に行い、学校だけでなく、家庭や地域からの目も活用していただきたいと思う。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。 (市共通項目)	C	<ul style="list-style-type: none"> ○坂戸小学校、南小学校とは、小中連携のための教諭を通し、情報交換を行った。しかし、コロナ禍のため、例年行われている学校全体としての小中連絡会が実施できず、各教科や生徒指導上の情報交換を行うことはできなかった。 ○個々の生徒については情報交換を行うことはできた。今後、直接でなくても、情報ツールのメッセージでも可能な範囲で情報交換を小中で行っていく。 ○新しく導入されたタブレットの使用状況等、利用レベルの把握を行っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・坂戸中、千代田中の2つの中学校区に3校中2校の小学校がまたがっており、統一した取組に困難さはありますが、そのような中でも昨年度より一歩も二歩も進んだ取組をさせていただいています。今年度は、その実績と成果を踏まえてより充実をと考えておりましたが、コロナ禍にあり、自粛せざるを得なかったのが残念でなりません。その様な状況下でも小中連携推進担当の先生を継続して派遣していただいたり、教育相談等の連携を図らせていただけたのは大変有難かったです。過日の坂戸小学校6年生対象のオンライン授業もありがとうございました。市内で唯一hyper-QUを小中で実施し、活用できるのが坂戸小・中ですので、今後も「児童生徒の見えない心の声(叫び)」を可視化することで生徒指導・教育相談に活かせればと思います。 ・坂戸市内では、城山学園というモデルケースがあるが、そこでの結果が反映加味されているのか。(小中一貫のメリット、デメリット、反省点は何か)かえて誤った先入観を持つことにもつながることも。 ・小学生とオンラインで説明する機会があったことはとても良かったと思う。 ・コロナ禍でも精一杯取り組まれていたと思います。 ・教師間も、オンライン会議を重ねるなど、対面でなくても情報共有して行って欲しい。 ・コロナ禍のため、小学校との連携をとることは難しいが、生徒の教育指導に関する情報交換や意思疎通は、いろいろな情報ツールを活用して、しっかり行っていただきたいと思う。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
各種行事	14	各行事がそれぞれの目的達成のために充実した取組になっている。(坂戸中項目)	A	<p>○各行事の実施要項の目的の中に、学校教育目標を入れて提案することができた。</p> <p>○行事の精選を図るために、行事検討委員会を開催し、次年度に向けて検討していく。</p> <p>○野菊祭の時期、開催方法等を行事のねらいに照らし合わせ検討していく。</p> <p>○修学旅行時期について、他の行事との関係を含め、行事検討委員会で検討していく。</p>	A	<p>・行事縮小の中でも、校長先生をはじめ、先生方が工夫して、生徒に効果的な学校行事の場を提供していることは、素晴らしいと思う。</p> <p>・働き方改革を推進する中、行事の精選や内容の在り方も検討されてきたかと思います。さらには、コロナ禍が続く中、行事の実施時期の見直しや内容の再検討等、言葉では言い表せないような大変なご苦労もあったことと思います。そのような状況下でも学校目標の具現化の視点から様々な工夫をされ、教職員が一致団結して生徒主体の充実した取組が実施されていることは大変素晴らしいことだと感じます。</p> <p>・コロナ禍でもどうにか出来る方法を模索し、生徒たちに機会を与えていると感じる。</p> <p>・行事の目的を生徒が理解できるよう、時間をかけた組織があると、より深い行事につながるのではないかと。</p>
健康体力部活動	15	生徒の健康の保持増進、個性の伸長が行われている。(坂戸中項目)	A	<p>○体力向上の取組が、教科、部活動等を通して学校全体で行われている。食育も計画的に行うことができた。</p> <p>○薬物乱用防止教室等、生徒の健康保持・増進のための取組が行われた。</p> <p>○部活動の扱いにおいて、部活動、クラブチームの区別、認識の共有化を図っていく。</p>	A	<p>・密を避け、可能な範囲で「薬物乱用防止教室」が実施されたことは良かったと思う。</p> <p>・コロナ禍にあつて、まさに生徒の心身の健康保持と学びの保障が学校教育の大きな柱となっています。坂戸中学校には文武両道の精神が脈々と受け継がれており、学業とともに部活動や体育的指導も大変に充実されていると感じています。体力向上の視点、保健指導の視点、生徒の心身のケア等、様々な視点から組織的に生徒の健康の保持増進、個性の伸長を行っていただいていると思います。</p>
教職員資質向上	16	教員が研修に取り組み、資質向上を図っている。(坂戸中項目)	A	<p>○コロナ禍で予定されていた研修を実施することができなかった。</p> <p>○「学力学習状況調査の有効活用研修」「一次救命処置研修」「発達障害、LD,ADHD、自閉症研修」等を実施し、教育活動に活かしていく。</p>	A	<p>・コロナ禍で多くの研修会が中止になっている中、教職員の学び合いに対する意識が向上してきたことは評価できる。</p> <p>・コロナ禍にあつて、外部機関研修や外部の指導者を招聘しての研修もままならない状況可下にあつて、オンライン研修等を活用し、補われていることと思います。また、校内研修においても、学力向上に関わる全国や県の学力学習状況調査の有効活用研修、生命に関わる危機管理研修、生徒理解にも重要な特別支援教育に関わる研修等、学校課題に即し、重要なものを精選されて積極的な取組を行っていただいていると感じます。</p> <p>・ご多忙の中、頭が下がる思いです。外部の研修も素晴らしいが、先生間の学び合い(工夫の共有、生徒情報の共有など)が重要だと思うため、さらに力を入れてもらいたい。</p> <p>・仕方ないことだが、研修がなかなか実施できなかったと聞いている。オンラインの外部研修などが学校で受講しやすくなっていると思うので、全体では難しくても個別に研鑽を積んで欲しい。</p>